

クリエイティブの祭典“AnyTokyo”、出展者第二弾、13組発表！

2019年11月16日（土）～24日（日）kudan house（東京・九段下）

【プレスプレビューのご案内】11月15日（金）15時～20時




AnyTokyo 実行委員会は、2019年11月16日（土）～24日（日）に、kudan house(東京・九段下)にて開催するクリエイティブの祭典“AnyTokyo2019”の出展者第二弾13組を発表いたします。本年は、“Crazy Futures / かもしれない未来”をテーマに、国内外からジャンルを超えた各分野のイノベーターたちが歴史的建造物、kudan house を舞台に集結。展示やトークイベントにより、未来について考えます。


出展者第二弾


Project	alamak! project 2019 (キュラトリアル プロジェクト)
Photo&Graphic	井上嗣也 (アートディレクター・グラフィックデザイナー)、新良太 (フォトグラファー)、西村裕介 (フォトグラファー)、吉田多麻希 (フォトグラファー)
Photo	岩本幸一郎 (写真家)
Craft	HUMAN AWESOME ERROR (アートコレクティブ)
Project	ゴールデンピン デザイン アワード (デザインアワード)
Sound	サクマカイト バティック (サウンドアーティスト)
Product	鈴木啓太 [PRODUCT DESIGN CENTER] (プロダクトデザイナー)
Installation	立石従寛 (美術家・音楽家)
Graphic	田中義久 (グラフィックデザイナー・美術家) + 大原大次郎 (グラフィックデザイナー)
Conceptual art	ni-wa (アーティスト)
Installation	平川紀道 (アーティスト)
Photo	八木夕菜 (アーティスト・写真家)
Product	YOY (デザインスタジオ)


出展者プロフィール


alamak! project 2019	キュラトリアル プロジェクト	<p>alamak!project</p> <p>https://alamakproject.com</p>	Project
<p>アジアの急速に発展を続けるクリエイティブな才能あるアーティストやデザイナーにプラットフォームを提供し、将来のアートとデザインムーブメントへの原動力として、またアジアの現代的な創造性を改めて評価し発信することを目的として、中牟田洋一 / Henry K.T. Hsiao により設立。イベントや展覧会を通して、アジアの隠れた才能にスポットをあて国際的に広めていくことを目指している。</p>			
井上 嗣也	アートディレクター・グラフィックデザイナー		Photo & Graphic
<p>1947年生まれ。1978年ビーンズ設立。広告、音楽、出版、TV などのアートディレクション。写真とタイポグラフィの斬新なデザインワークでジャンルを横断した仕事を続けている。東京ADCグランプリ、東京TDCグランプリ、日本宣伝賞山名賞、毎日デザイン賞他。</p>			
新 良太	フォトグラファー		Photo & Graphic
<p>1973年東京生まれ。2000年フリーのフォトグラファーとして建築写真を中心に活躍中。写真集『TOKYO SKYTREE』、『Not Found』を上梓。2010年東京ADC制作者賞を受賞。</p>			
西村 裕介	フォトグラファー		Photo & Graphic
<p>1983年東京生まれ。先年、日本中の数多くの祭礼を撮影して名作『The Folk』を上梓し、日、仏、伊、西、各国編集の『NATIONAL GEOGRAPHIC』誌に特集されるなど、国内外で高い評価を得た。現在は広告、音楽、雑誌等で撮影。</p>			
吉田 多麻希	フォトグラファー		Photo & Graphic
<p>1975年神戸市生まれ。商業フォトグラファーとして活躍する傍ら、日常当たり前に存在する生き物や物質の存在や表情に興味を持ち継続的に作品制作を続けている。2019年東京ADCグランプリ、キャノン写真新世紀優秀賞他。</p>			
岩本 幸一郎	写真家	 <p>https://www.instagram.com/iwamoto_koichiro/</p>	Photo
<p>1992年福岡県生まれ。写真家。2015年から平間至のもとでインターンをしたのち、文化出版局写真部を経て2018年に独立。以降、『Them magazine』や『i-D Japan』などのファッションメディア、BEAMS HARAJUKUのキャンペーンや数々のファッションブランドのビジュアルを手掛ける一方、独自の感性を活かした作品を発表し続けている。</p>			


HUMAN AWESOME ERROR	アートコレクティブ		Craft
<p>蔡海（チェウミ）は数々のインタラクティブ広告のプロデュースを経て、工芸家と芸術家のコレクティブ HUMAN AWESOME ERROR を設立。</p> <p>技術と文化の歴史が、人間の美意識にもたらす変化を感じとり、見過ごされていた角度にスポットを当てることで、人々の想像力を広げることを活動原理とする。</p>			


ゴールデンピン デザイン アワード	アートディレクター・グラフィックデザイナー	 <p>http://www.goldenpin.org.tw/en/</p>	Media art
<p>ゴールデンピン デザイン アワードは、1981年にスタートした台湾デザインセンター運営のデザインアワード。一般作品の「ゴールデンピン デザイン アワード」、未製品化の「ゴールデンピン コンセプト アワード」、新鋭デザイナー向けの「ゴールデンピン ヤング アワード」を設け、中華圏に特化したクリエイティブなデザイン作品および商品の表彰認証事業を行う。</p>			


サクマカイト バティック	サウンドアーティスト	 <p>https://kaitosakuma-batic.com</p>	Photo
<p>1992年生まれ、サウンドアーティスト。「聞かない音の探求と知覚拡張」をコンセプトにサウンドアート作品を制作。LAUTASHI 19SS での落合陽一共作のマルチサウンドシステムや、傾ける壁 listening wall 森山未来・岩本幸一郎との共作 vertigo などでお有名。振動技術を使った、スピーカーを超えた触覚的な聴覚作品に特徴がある。</p>			

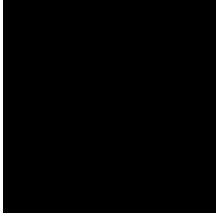
鈴木啓太 [PRODUCT DESIGN CENTER]	プロダクトデザイナー	 <p>https://www.productdesigncenter.jp/</p>	Product
<p>1982年愛知県生まれ。古美術収集家の祖父の影響で、幼少時からものづくりを始める。2012年 PRODUCT DESIGN CENTER 設立。プロダクトデザインを中心に、国内外でプランニングからエンジニアリングまでを手がける。2018年には柳宗理記念デザイン研究所にて、同デザイナー以外では初となる個展を開催。2019年にはデザインした「相模鉄道 20000 系」がローレル賞 2019 を受賞。</p>			


立石 従寛	美術家・音楽家	 <p>https://jukan.co</p>	Installation
<p>1986年アメリカ合衆国・シカゴ生まれ。ノンヒューマン・アーティストとして、従来の写真と音に加え人工ニューラルネットワークや仮想現実、立体音響を用いたインスタレーション表現に挑戦。人工知能のみ風景に流れ込む人間の像を観察する。代表作に「沈んだ世界のアンカー」、「そのそれら」、「ことばおどる」、「Abiotope」など。2017年に渡英、Royal College of Artにおいてファインアートフォトグラフィーの修士号を取得中。</p>			


田中 義久	グラフィックデザイナー・美術家	 <p>http://www.yoshihisatanaka.com/</p>	Graphic
<p>1980年静岡県浜松市生まれ。近年の仕事に東京都写真美術館の VI 計画、『The Tokyo Art Book Fair』、『Takeo Paper Show 2018』などのアートディレクションなど。また、アーティストデュオ「Nerhol」としても活動。</p>			

大原 大次郎	グラフィックデザイナー	 <p>oharadaijiro.com</p>	Graphic
<p>1978年神奈川県生まれ。タイポグラフィを基軸とし、音楽、書籍、空間、映像などにおけるグラフィックデザインに従事するほか、展覧会やワークショップなどを通して、言葉や文字の新たな知覚を探るプロジェクトを展開する。</p>			

ni-wa	アーティスト		Conceptual art
<p>街が抱えるあらゆる社会課題を、街に関わる人々と社会彫刻アートを通じて解決していく。生き生きとした生命力が感じられる「場」を街の中に創造する事で、コミュニティ・ディベロップメントの具現化に取り組む。</p>			
<p>https://ni-wa.co.jp/</p>			

平川 紀道	アーティスト		Installation
<p>1982年生まれ。もっとも原始的なテクノロジーとして計算に注目し、コンピュータプログラミングによる数理的処理そのものや、その結果を用いたインスタレーションを中心に、2005年から作品を発表。2016年に、カブリ数物連携宇宙研究機構、2017年に、チリの標高5000メートルに位置するアルマ望遠鏡での滞在制作を経て、2019年より札幌を拠点。</p>			
<p>http://counteraktiv.com/</p>			

八木 夕菜	アーティスト・写真家		Photo
<p>2004年、ニューヨーク・パーソンズ美術大学建築学部卒業。現在は京都拠点。「見る」という行為の体験を、写真と空間インスタレーションで表現している。主な展示にパリ国際現代写真フェア、FOTOFEVER、Pola Museum Annex 銀座にて個展を開催。主な受賞「京都国際写真祭」ポートフォリオ・レビュー最優秀ハッセルブラッド賞、「写真の町 東川賞」新人賞ノミネート。</p>			
<p>https://yunayagi.com</p>			

YOY	デザインスタジオ		Product
<p>YOY は、2011年に小野直紀と山本侑樹によって設立された、東京を拠点に活動するデザインスタジオ。「空間とモノの間」をテーマに家具や照明、インテリアのデザインを行う。その作品はMoMAはじめ世界中で販売され、国内外で多くの賞を受賞している。2015年より武蔵野美術大学非常勤講師。</p>			
<p>http://yoy-idea.jp</p>			

出展イメージ

1	Taiwan New Wave alamak! project 2019
台湾の若い映像クリエイター、最新のアーティストマガジン 8G を紹介。	

2	ANY CHANCE 井上嗣也、新良太、西村裕介、吉田多麻希
----------	---

3	isolation 岩本幸一郎
記憶の回想をテーマに制作。記憶を辿る作業のように、雪山での撮影現場からプリントまでのアプローチを、物理的に延ばして制作。	

4	工藝族車 HUMAN AWESOME ERROR
<p>工芸と「族車」文化では社会的評価に大きな隔たりがあり、これまで融合されることはなかったが、手作業による唯一性や物語性がもたらす価値観、マスプロダクションによる工業製品の画一性に対して投げかける疑問符は、工芸家と旧車會に共通する。このプロジェクトでは、鍛金と呼ばれる、熱して軟化した金属を金槌で叩いて成形する金属工芸の技術を中心に、「族車」を作り上げる。</p>	

5	①海洋廃棄物図鑑サイト、②図書館「Not Just Library」入場券デザイン、③ファイバーウッド オブジェ シリーズ ゴールデンピン デザイン アワード
<p>①ビーチクリーン活動で見つけられた 101 種の代表的な海洋廃棄物の情報を紹介するプラットフォーム「海廃図鑑」。廃棄物をできるだけ作らないという行動を促す。②22 冊の雑誌を分解し再印刷してできた、模様が 1 枚ずつ異なる 1,667 枚の紙をさらに 10,000 枚に裁断して作ったデザイン図書館のチケット。③アマの繊維を用い、15 の工程や 8 つの伝統漆の技法を経て、黒い雲、青い雲など異なるビジュアルを持つ新感覚素材。</p>	

6 サウンドインスタレーション | サクマカイト バティック

『クロック。触聴覚による時間感覚の拡張』九段ハウスのコンクリートに包まれた空間と人工的に作られた自然。初めて、訪れた時に感じたのは、建物の中をすり抜けていく生活の息吹だった。仕切られつつも、区別されない空間に見出すのは、多様なメディアにより分断されていく自分の姿。この部屋では、触りながら聴くこと、そして、そこにいたであろう亡霊の気配をきくことで、自らの実在について考える時間をつくりだす。

7 予想外の美 | 鈴木啓太 [PRODUCT DESIGN CENTER]

20世紀から今にかけては「コントロールの時代」だったと思う。世界中どこでも同じ品質のプロダクトが手に入る。しかし、100年後も残るプロダクトとは？僕の答えは、時代によって変化し続け、美しさを更新していく素材や技法の追求だった。江戸時代に生まれ、主に刀の鞘の装飾で用いられてきた「ひび塗り」。箔の上に漆を塗るその技法を発展させてきた工房との出会いにより、思い描いてきたものの在り方を形にする。

8 もう一つの海景 | 立石従寛

不変の象徴として海を捉える杉本博司の「海景」への呼応作品。インスタグラムから地域と状況に基づく海に関するハッシュタグを選定、これに紐づく膨大な画像を収集、人工知能的に分析、一つのイメージへ再構築する手法をとることで、人工知能の視る海景＝切り出された人間の社会概念を観察する。人工知能の視る海には常に人の像が浮かび上がる。それは投稿者の生活、思想、美学がそれぞれの海に反応したものだ。

9 漂流物と紙 | 田中義久 + 大原大次郎

今年の1月に開催した「大原の身体 田中の生態」展。その際に徳島で制作した和紙の作品を中心に構成する。山形、徳島、葉山など、大原がレジデンス先で採集してきたマテリアルを抽出し、身体性をもって紙へと集約させた和紙は、墨流し、落水など、手漉きの技法と作用させながら、多様な色彩や質感を集積、身体の痕跡と共に、文字や図像とは異なる視覚原理を内包し、新たな紙としての生態系を予見させる。

10 2119/THE CITY - 社会を彫刻せよ - | ni-wa

今後の街が抱える様々な社会課題を街のあらゆる方々と一緒に社会彫刻的アートプロジェクトを通じて解決するコンセプチュアルアート。『2119』は、大阪中津が舞台。2019年時点で存在している人が誰も見ることが出来ない、100年後の2119年の街を想定した際に「今残したいものは何か？」について、街の皆様から募集した写真を中津3丁目内に展示し、その際の人々の「想い」をAny Tokyo 2019にて展示。

11 S³ | 平川紀道

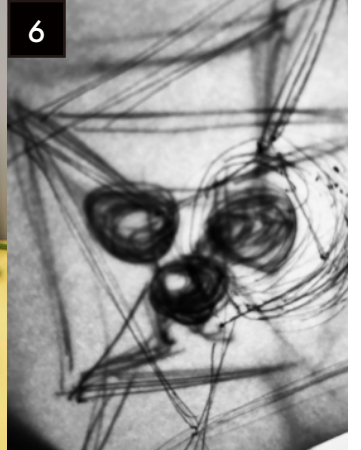
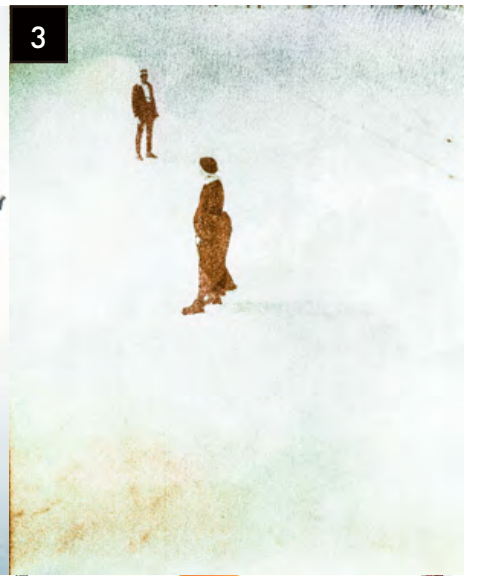
4次元ユークリッド空間における3次元球面を2つの座標系で可視化したもの。球という幾何学形態は、あまりに対称、一様であって取り付く島がないが、4次元空間における球面となると、余計に想像が難しい。任意の点から等距離にある点の集合、という簡単な説明に対して、それを可視化したときに顕れる視覚的な複雑さのギャップは、純粋に驚きであるだけでなく、「美」の生まれるところを示唆するように思われる。

12 崩れゆく世界 | 八木夕菜

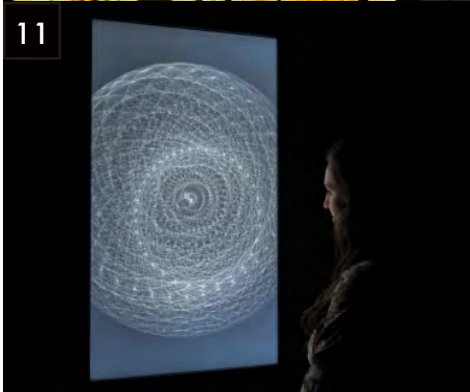
本シリーズでは、アルゴリズムを写真に当てはめることで写真に新たな次元を加えている。インスタレーションでは水を入れ、水面の揺らぎとアルゴリズムが二重に画像を歪めさせる。こうして生まれる視覚のズレは、私たちが見ているであろう目の前の風景が何であるか再確認することになるだろう。これからの未来を考えていくためのひとつの眼目となればと願う。Algorithmic program by Micheal Casey Rehm

13 LIGHT OF YOY | YOY

私たちが着目するのは、人がモノを知覚する際に生じるズレ。その裏側にある視覚的補完、思い込み、想像力といった人の心理的な性質や能力にアプローチすることで、一見するとその仕組みがどうなっているのかわからない不思議なプロダクトを生み出すことができる。本展では、こうした考えのもとにデザインした、5つの照明を展示する。光るペンキ、浮かぶシェードなど、小さな驚きをもたらす照明を部屋の中に散りばめる。



工藝族車



開催概要

イベント名 AnyTokyo2019
テーマ Crazy Futures / かもしれない未来
会期 11月16日(土)~23日(土) 11:00-19:00
11月24日(日) 11:00-17:00
会場 kudan house (102-0073 東京都千代田区九段北 1-15-9)
入場料 一般: ¥1,000 / 学生: ¥500
※当日、会場にて現金・カード・PayPay
主催者 AnyTokyo 実行委員会
公式HP <http://anytokyo.com/2019/>
公式FB facebook.com/anytokyo/



会場の外観

※会場は、靴を脱いでいただき、スリッパをお履きいただきます。
※皆さまに快適にご覧いただくため、人数制限を設けており、お待ちいただく場合があることをご了承ください。

プレスレビューのご案内

11月15日(金) 自由内覧 15時~20時 (入場締切 19時)

※15時半より1時間程度、主催者より出展作品をご紹介します会場内ツアーを行います(先着順)。

※18時よりパーティーのため、混雑が予想されます。会場撮影を行う際は、18時前にご来場頂くことをお勧めします。

お申込み: お名前、会社名・媒体名、お電話番号を「press@anytokyo.com (担当: 村上)」までご連絡ください。

トークセッション「〇〇の未来」

「稼ぐの未来」11月16日(土) 14:00~15:00

登壇者: 永田暁彦氏 (株式会社ユーグレナ 取締役副社長COO、リアルテックファンド代表)
脇田玲氏 (アーティスト、慶應義塾大学 SFC 環境情報学部 学部長 教授)
九法崇雄 (Forbes JAPAN エディトリアル・アドバイザー)

「着るの未来」11月17日(日) 17:00~18:00

登壇者: 福原志保さん (バイオアーティスト)
川崎和也さん (スペキュラティブ・ファッションデザイナー、デザインリサーチャー、Synflux主宰)
村上要氏 (WWDJapan.com 編集長)

「伝えるの未来」11月19日(火) 19:00~20:00

登壇者: 小野直紀 (雑誌『広告』編集長、クリエイティブディレクター、プロダクトデザイナー)
大高健志 (MOTION GALLERY 代表、POPcorn 共同代表)
mmm (インタープリター)

「描くの未来」11月20日(水) 19:00~20:00

登壇者: 大原大次郎氏 (グラフィックデザイナー)
田中義久氏 (グラフィックデザイナー・美術家)
上條昌宏氏 (AXIS 編集長)

※最新情報は、Peatix (<https://anytokyo2019.peatix.com/>) よりご確認ください。

プロフィール

AnyTokyo: アーティスト、サイエンティスト、デザイナー、アントレプレナー……世の中の分野や常識を越え、新たな価値を生み出そうとする人々や企業たち。AnyTokyo は、彼らとともに、予測できない未来を実験し、発見するためのクリエイティブの祭典です。

報道関係者の問合せ

ご取材、撮影、画像貸出しなどに関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

AnyTokyo PR 担当 村上 晴香

E-mail: press@anytokyo.com

TEL: 090-5074-2320

デイリープレス 山本 真澄

E-mail: masumiyamamoto@dailypress.org

TEL: 090-4062-6361

一般からの問合せ

イベント全体、出展に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

AnyTokyo2019 事務局 野村 真知子

E-mail: info@anytokyo.com